

<div>（参考） 都内のコロナ 患者の状況</div>	7 月			
	新規陽性患者数：1,149人 重症患者数：54人	新規陽性患者数：1,832人 重症患者数：64人	新規陽性患者数：3,177人 重症患者数：80人	新規陽性患者数：3,865人 重症患者数：81人
	区南部 （令和 3 年 7 月14日開催）	区東部 （令和 3 年 7 月21日開催）	区西北部 （令和 3 年 7 月28日開催）	北多摩北部 （令和 3 年 7 月29日開催）
療 保 養 健 者 所 フ の オ 入 口 院 ― 調 等 整 の ・ 状 自 況 宅	○（品川区）全て都に入院調整を依頼している。入院先は区内が多い。第3波は目詰まりも多く、1日400人の自宅療養者がいた時もあった。 ○（大田区）7～8割は区独自で調整しており、コロナ専用病床を持つ荏原病院を中心に依頼している。	○（墨田区）一刻を争うものなど、2、3割は保健所で直接入院調整している。 ○（江東区）基本的には都の入院調整本部を通しているが、区内にかかりつけがある場合等は保健所で直接調整している。夜間は100％都に依頼している。 ○（江戸川区）その時の状況や症状の緊急度に応じて判断し、2～4割は保健所で調整している。	○（豊島区）ほぼ都に入院調整を依頼している。陽性者への状態確認だけでも手一杯の状況。電話連絡だけでなく、SMSを活用して対応している。 ○（北区）重症は都へ依頼し、約8割区内に入院している。先週からは中等症も都へ依頼している状況。 ○（板橋区）重症は都へ依頼し、約8割区外に入院している。マンパワー的にも全て保健所を窓口に入院調整・宿泊療養調整が行われるのは厳しい。夜間入院調整も、翌日業務に支障が出るので保健所を経由しない方法を考えてほしい。 ○（練馬区）受入れ病床が少なく、約8割区外に入院している。自宅療養者にはパルスオキシメーターを配布し支援している。	○（多摩小平HC）日中は圏域内での入院が多いが、6月に比べて圏域内で入院できるケースが少ない。合併疾患の場合は圏域外への入院が多い。 自宅療養が増えつつある中、保健所としてはオンラインにて容態確認ができると良い。配布しているパルスオキシメーターにて定量的に患者の容態もわかる。
患 医 者 者 療 フ の 機 オ 受 関 ロ 入 の ― 役 等 ・ 割 の 自 に 状 宅 応 況 療 じ 養 た	○大田区は荏原病院や東邦大学大森病院が中心に重症患者を受け、周辺の病院が軽症・中等症までをかなりの人数受けている。 ○コロナは落ち着いても基礎疾患が悪化している患者がいる。後方病院の得意分野で仕分けしないとアフターコロナの患者で溢れてしまう。 ○（品川区医師会）オンライン診療で自宅療養者に対応している。 ○医療従事者へのワクチン接種が進み、訪問診療に出やすくなった。次は訪問診療時の夜間救急の受入先等との連携が課題になる。	○慢性期の病院はアフターコロナの患者を受け入れることで協力しており、墨田区としては上手くいっている印象がある。 ○墨田区では、コロナ軽快後の受入れ先の調整が病院間で難航した場合は保健所が間に入ることがある。墨東の医療連携室がコントロールタワーのような役割を担っている部分もある。	○（板橋区）病院との顔の見える関係ができている。一方、都立・公社への入院調整が都に一元化され、豊島病院へ直接依頼できず苦慮している。 ○板橋区医師会の相談室経由で療養期間終了後や紹介元のある患者は紹介元に引き取ってもらえている。 ○中等症を診ているが、第3波のように重症化した患者を転院できないような目詰まりがこの先起きないか懸念している。 ○（板橋区医師会）自宅療養者については、夜間は区が契約しているファストドクターが対応している。在宅酸素についても医師会で3台用意したが、運搬方法が課題。	○ポストコロナ患者の受入れを不可とする病院が多い。退院基準の理解が進んでいない。 ○ホテルの受入れが少ない。回転率を上げてほしい。 ○（東久留米市医師会）7名体制で24時間365日の在宅に関するコールセンターを設置し、フォローアップを行っている。 ○（西東京市医師会）24時間ではないが、日中は電話による相談窓口を設置している。 ○（小平市医師会）電話対応はできているが、自宅へ診に行くことまで整理できていない。医療機関へのアンケートに基づき、対応を検討中 ○（清瀬市医師会）理事会にて対応方法を検討中
関 係 者 間 の 情 報 共 有	○大田区は区内病院、医師会と月1回会議を開催し、情報共有を行っている。入院医療協議会という病院同士の組織が以前からあったことと、行政を含めた連絡調整会議をコロナの早期に組めたのが良かった。	○保健所と医療機関の間で病床の空き状況をリアルタイムで共有できるシステムが欲しい。 ○転院は最終的には病院間で直接連絡をとるが、最初のとっかかりとして患者情報を得るため転院支援システムを利用している。	○北区は、病病、病診連携が上手く行っており、日々行政とも情報共有できている。	○（多摩小平HC）毎朝、各病院と空床情報を共有している。

（参考） 都内のコロナ 患者の状況	8月			
	新規陽性患者数：3,709人 重症患者数：112人	新規陽性患者数：4,200人 重症患者数：197人	新規陽性患者数：4,989人 重症患者数：218人	新規陽性患者数：5,773人 重症患者数：227人
	北多摩西部 （令和 3 年 8 月 3 日開催）	区西南部 （令和 3 年 8 月11日開催）	南多摩 （令和 3 年 8 月12日開催）	北多摩南部 （令和 3 年 8 月13日開催）
療 保 養 健 者 所 フ の オ 入 ロ 院 ー 調 等 整 の ・ 状 自 況 宅	○（多摩立川HC）直近1週間の新規陽性者は633人。前週の倍の人数、第3波の1.5倍に相当する。入院中の方は前週と変わらず約200人。満床が続いている。区部からの患者が多くなってきている。 ○今後は自宅療養が中心となってくる旨の報道も出ている。かかりつけ医がキーとなってくる。	○（目黒区）都への依頼が多いが、急を要する場合は、区内病院へ依頼している。陽性者への連絡は、電話では連絡が付くのに3日ほどかかっているため、重症化リスクの低い方には先週からSMSを活用している。 ○（世田谷区）自宅療養者には酸素濃縮器を配布して対応している。区は独自施策として、無症状者に対して社会的検査を実施している。濃厚接触者を探すのではなく、陽性者の出た施設丸ごと検査して対応している。 ○（渋谷区）基本的に都へ依頼し、重症化リスクの高い方は同時並行で保健所でも探している。自宅療養者への連絡はSMSも活用しているが、重症化リスクのある方は家庭訪問も行っている。	○（八王子市）入院調整は都へ依頼しているが、調整が難航し翌日対応となることが多い。医師会等と連携して対応していく。 ○（町田市）自宅療養も100人近くいる。入院調整は基本的に都へ依頼している。陽性者には当日の夜間には連絡取れている。 ○（南多摩HC）7月中旬頃から状況が厳しくなり都へ依頼。病院へ直接依頼する場合もある。自宅療養者には当日もしくは翌日には連絡取れている。オンラインやパルスオキシメーターの配布などにより対応している。 第4波を受けて、若い世代の感染が増えたため大学寮に事前調査や連絡体制の確認等を行った。	○（多摩府中HC）自宅療養者のフォロー対象年齢を、以前は65歳以上だったが30歳以上に変更した。（30歳未満はフォローアップセンターが支援） 陽性者へは重症化リスクの高い人から翌日には電話できていたが、今は携帯電話を40台借上げて対応しているが2日要している。 今後更なる患者の増加を見据え、医療機関には、ハース等への患者情報の記載の工夫や、保健所からの連絡やフォローアップに関して患者への伝達をお願いしたい。 保健所でも新たにパンフレットを作成し呼びかける予定。 管内の診療・検査医療機関に対し、電話等の非対面診療が可能かアンケートを取り、50程度の医療機関のリストを作成している。
患 医 者 者 療 フ の 機 オ 受 ロ 入 ー れ 等 ・ 割 の 自 状 宅 況 療 じ 養 た	○後方病院は現在のところ目詰まりは起きていない印象。今後は心配。区部からの患者が多く、医療資源も少ないため、なるべく地域の患者を診たい。 ○自宅や宿泊療養者が入院適用となった際に、どう振り分けるかの整理が必要。 ○（北多摩医師会）自宅療養者の往診体制の構築が課題。構成市それぞれの行政と対応しなければならない。マンパワーが不足している。	○中等症Ⅱまで診ているが、重症化しても転院先がないため、自力で対応している。軽快した患者は入院期間を短くし、病床の回転率を上げている。	○重症者用にICU7床用意しているが、この1週間満床が続いている。週末には一晩100件（ほぼ23区から）の入院依頼があった。病床増が必要なのか、全体像が見えない。また軽快後の患者の受入れ先がなかなか決まらない。一般床へ移して対応している。 病院からの転院なら、軽快後に元の病院へ帰せるが、施設からだとなかなか引き取ってもらえない。	○（調布市医師会）機能強化型在宅療養支援診療所の協力を得て、当番制で保健所からの連絡を受ける形をとっている。 ○（武蔵野市医師会）自宅療養者への支援に関する研修会開催を検討している。訪問看護や薬剤師会との連携が必須であり、多職種で対応していく必要がある。一人暮らしや介助者が陽性となった場合は、生活支援も必要となってくる。 自宅療養者への医学的な介入ができる仕組みを早期に整える必要がある。 ○（府中市医師会）自宅療養者の支援方法は検討中 ○（小金井市医師会）診療検査医療機関が保健所をフォローしている。 ○（三鷹市医師会）電話で対応。往診可の病院は少な
関 係 者 者 間 の 情 報 共 有	○（多摩立川HC）16病院と2週に1回の頻度で病床の調整や病院の状況について意見交換・情報共有を行っており、空床状況も共有している。 ○（多摩立川HC）感染症指定医療機関等については、毎日のやりとりの中で空床情報を把握している。	○（目黒区）不定期で、医療機関、医師会、救急隊等と連絡会を設置し、情報共有を行っている。 ○（世田谷区）令和2年4月から、医師会と発熱外来センターを持つ病院と連絡会を設置し、情報共有を行っている。世田谷医師会、玉川医師会と日々情報共有を行っている。 ○（渋谷区）不定期だが病院と医師会との連携会議のほか、月に1度、医師会と情報交換や相談等している。 ○自宅療養者の急変時にすぐに入院できる体制や情報共有できる仕組みが必要	○（八王子市）第1波後から医師会や患者受入れ病院、東京医科大学八王子医療センター等の医療機関と週1回コロナに関する情報共有及び課題の検討を行っている。	

(参考) 都内のコロナ 患者の状況	8月				9月	
	新規陽性患者数：5,386人 重症患者数：275人	新規陽性患者数：5,405人 重症患者数：273人	新規陽性患者数：4,220人 重症患者数：268人	新規陽性患者数：4,228人 重症患者数：277人	新規陽性患者数：2,539人 重症患者数：278人	
	区中央部 (令和3年8月18日開催)	区西部 (令和3年8月20日開催)	西多摩 (令和3年8月24日開催)	区東北部 (令和3年8月25日開催)	島しょ (令和3年9月3日開催)	
保健所の 入院調整 の状況 ・ 自宅療養者 フォ	○（千代田区）陽性者には翌日連絡が取れている。連絡が途絶えた際は、自宅へ訪問。 ○（中央区））自宅療養者にはオンライン等を活用して対応している。 ○（港区）陽性者には当日か翌日に連絡取れている。親が陽性となった場合、ホテルの一室を借り上げ保育事業者が子を預かる居場所事業を実施。 ○（文京区）陽性者にはできる限り当日連絡を取るようしている。酸素濃縮器が足りなくなってきたり、業者に個別に取り寄せも始めている。 親が陽性となった場合は、小児科を持つ病院へ保護委託にて対応。 ○（台東区）在宅酸素については、医師会や病院と協議中。区独自で自宅療養者へ日用品を配布している。医師会や訪問看護ステーションと連携していく。陽性者には原則当日には連絡を取る。 親が陽性となった場合は、子ども家庭支援センターでの保護委託で対応。	○（新宿区）日中は都の事業、夜間は区が委託する医療機関に相談や往診、リモート診療をお願いしているが、酸素濃縮器が不足している。医師会、訪問看護ステーションと連携して自宅療養者支援を検討している。 ○（中野区）自宅療養者には、医師会に協力いただきリモート診療や訪問診療を行っている。 リスクの高い陽性者には必ず当日連絡を取っているが、その他の人は当日は厳しい。 ○（杉並区）入院調整は区内のほうが円滑にできている印象。病床利用率が98%となっており、日中は医師会に協力いただき訪問診療を行っているが、SpO2が90を下回る人でもすぐには入院できていない。在宅酸素で持たせているのが現状。 リスクの高い人には当日、その他の人には翌日までには連絡を取り、パルスオキシメーターはリスク高い人には車で当日、その他の人にはレターバックで送付している。	○（西多摩HC)新規陽性者について7月当初は1日10人前後だったが、先週は120人。新規陽性者を入院、自宅療養にどう振り分けるかが課題。自宅療養者には医師会がオンラインや電話診療にて対応。SpO2が90下回る場合でも当日入院できない方が出てきており、在宅酸素を導入している。 最近はや若い世代の陽性者が多い。重症化前に治療できる体制が必要。 都から自宅療養者への食料送付が遅れており、依頼から4、5日かかっている。	○（荒川区）医師会が中心となり自宅療養者への薬の処方の取組。病院と協力して転院時の患者情報の提供方法や民間救急車の手配などの統一ルールを作成し、運用を開始。 陽性者には、項目を絞って一次の連絡をしているが、翌日になる場合もある。 ○（足立区）入院調整は都へ依頼。病院間で患者の融通等行っているところもある。宿泊療養を拡充してほしい。 陽性者には原則当日連絡をとっているが、3日空いてしまうこともある。発生届が検査から2、3日後に提出されることもあるため、この空白期間が課題。ショートメールやマイハースис等を活用し連絡を取っている。またグーグルフォームを活用し、SpO2の値など自宅療養と情報交換している。 ○（葛飾区）医師会に依頼し在宅酸素を用意しているが、不足気味。 自宅療養者には翌日には連絡を取っている。2日連絡が取れないと管理職が自宅訪問している。	各島における課題や対応策	○島外の医師を招聘して大規模なワクチン接種を2回行った。今後も問題なく実施できるのではないかと。 ○若者のワクチン接種率が低い。住所は島にあるが実際はいなかったり、副反応がひどく接種をやめた人もいる。 ○島しょの軽症患者を本土に搬送することについて、搬送の基準やその判断主体が不明確だと感じる。 ○広尾病院では、現在も可能な限り島しょからの患者は受け入れている。 ○八丈病院では中等症の受入可。満床の場合や重症化した場合に搬送をお願いしている。 ○希望する診療所にはロナブリーブを置けるようになった。
患者の医療機関 の役割 ・ 自己対応 した	○多くの病院で重症用、中等症用の病床ともに満床の状態が続いている。手術の制限が始まっている。それぞれの病院機能に応じた対応が必要。 ○後方支援病院として、出来る限りアフターコロナ患者の受入れや、在宅のフォローアップを行っている。 ○往診、オンライン診療、電話診療できる医師をリスト化し保健所へ情報提供している。	○（中野区医師会）患者から「保健所から連絡が来ない」との電話がある。空白期間をどうするか。患者はパルスオキシメーターをまだ持っていないため電話では評価が難しい。 自宅療養者への夜間対応は病院当直医が電話にて対応し、薬は病院に取りに来てもらう仕組みを検討している。 ○（杉並区医師会）自宅療養者への対応は、昼間は開業医、夜間はファストドクターが対応している。訪問診療は経験がないとハードル高い。薬局や訪問看護ステーション、保健所等との連携のノウハウが必要。	○現在55人受け入れており、13の陰圧室のうち10室が埋まっている。患者の7割が圏域外。救急の受入れを制限し、がんや脊損以外はストップしている。西多摩の在宅患者は必ず受けている。早くから治療できる体制が必要。 ○協力病院として2病棟をコロナ対応としている。拡充を目指す。区部からの患者が多い。 ○40床で対応しているが満床の状態。4割が区部からの患者。 ○自宅療養者が増え、早めの治療が必要。	○7月下旬から転院困難な事例が出てきている。コロナ対応病床を拡充する予定。 ○中等症Ⅱの患者が7、8割。SpO2が90下回る場合でも退院してもらっている状況。西多摩から患者がくることもある。不安で救急要請する患者がいる。 病院としてもコロナ対応病床を増やすが、コロナ患者を受け入れる病院を増やす必要がある。		
関係者間の 情報共有	○（港区）毎週WEB会議で診療検査医療機関への登録を呼びかけている。毎朝10時に陽性者一覧を病院へ送付し情報共有している。 ○（薬剤師会）現状、自宅療養者が発熱した際に速やかに薬を処方できていない。夜間帯など対応可能な薬局をリスト化し対応する。	○（杉並区）病院、医師会と定期的にコロナに関する連絡会を開催し情報共有している。		○（足立区）毎週、医師会と感染症対策委員会を開催し、PCR陽性率等を情報交換している。 ○（葛飾区）医師会、産婦人科医会、葛飾赤十字産院と妊産婦への対応方法について意見交換を実施。		